

中小企業景況調査報告書

平成 26年 10月～12月期 実績

(平成 27年 1月～3月期 予測)

調査実施時点 : 平成26年11月15日

京都府商工会連合会

《 目 次 》

1. 中小企業景況調査の概要	2 頁
2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】	3 ~ 4 頁
3. 各 業 種 の 景 況	
(1) 製造業の景況	5 ~ 6 頁
(2) 建設業の景況	7 ~ 8 頁
(3) 小売業の景況	9 ~ 10 頁
(4) サービス業の景況	11 ~ 12 頁

D・I とは (景気動向指数)

この報告書の中で用いている「D・I 指数」とは、ディフュージョン・インデックスの略で、企業経営者の景気の波及度合いを表す指標として、利用されています。

《算出方法》

前年同期に比べて、

$$\frac{\text{『増加』回答企業の割合}}{\text{(上昇・好転等)}} - \frac{\text{『減少』回答企業の割合}}{\text{(低下・悪化等)}} = \text{D・I}$$

D・I が、**プラス (+)** 値

強気 (楽観) を表す。

D・I が、**マイナス (-)** 値

弱気 (悲観) を表す。

例えば、売上高が前年同期比で、

『増加』回答企業 50%、『不変』回答企業 30%、『減少』回答企業 20% の場合、

$$\text{D・I 指数は、} \quad 50\% - 20\% = 30\%$$

となり、経営者の売上高に対する業況観が、強気気運であることを表しています。

1. 中小企業景況調査の概要

この調査は、商工会地域の産業の状況、地域の経済動向等について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速かつ的確に収集把握して、経営改善普及事業の効果的な指導資料にするために、全国商工会連合会が実施する調査に連携し、府内の状況を取りまとめたものです。

調査要領、本年度の調査対象商工会、及び、調査回答企業数・対象業種別構成の内訳は次のとおりです。

(1) 調査対象期間

平成26年10月～12月期を対象とした。

調査実施時点 ……11月15日（土）

調査期間 …… 11月5日（水）～ 11月15日（土）

(2) 調査の方法

(イ) 商工会の経営支援員の訪問による面接調査とした。

(ロ) 調査対象商工会の選定は、管内ごとの市町村人口を勘案し、又、調査対象企業の抽出は、各業種・規模等の有意抽出法とした。

(3) 調査対象商工会

京丹後市商工会、伊根町商工会、京丹波町商工会、南丹市商工会、京北商工会、長岡京市商工会、大山崎町商工会、井手町商工会、宇治田原町商工会、木津川市商工会、精華町商工会、南山城村商工会

(計12商工会)

(4) 対象業種別構成 及び 回答企業数

業 種	調査対象 企業数	構 成 比	回答企業数	回 答 率
製 造 業	40	22.0 %	39	97.5%
建 設 業	32	17.6 %	28	87.5%
小 売 業	49	26.9 %	47	95.9%
サービス業	61	33.5%	60	98.3%
【 合 計 】	180	100.0 %	174	96.6%

2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

《概要》

『サービス業で改善の兆しが見えるも全体の厳しさは変わらず』

売上高D・Iは、前年同期比で全産業1.2ポイント(前期▲22.2ポイント→今期▲21.0ポイント)と改善した。内訳として製造業は、▲5.0ポイント(前期▲8.1ポイント→今期▲13.1ポイント)の悪化、建設業は、▲19.3ポイント(前期15.3ポイント→今期▲4.0ポイント)の悪化、小売業は、▲5.1ポイント(前期▲34.1ポイント→今期▲39.2ポイント)の悪化、サービス業17.7ポイント(前期▲37.1ポイント→今期▲19.4ポイント)の改善となった。

一方、採算D・Iは、前年同期比で全産業2.4ポイント(前期▲29.2ポイント→▲26.8ポイント)改善した。製造業は、2.5ポイント(前期▲10.8ポイント→今期▲8.3ポイント)の改善、建設業0.0ポイント(前期▲24.0ポイント→今期▲24.0ポイント)の不変、小売業は、▲9.6ポイント(前期▲34.8ポイント→今期▲44.4ポイント)の悪化、サービス業は、12.5ポイント(前期▲38.3ポイント→今期▲25.8ポイント)改善した。

製造業は、前期に比して若干採算は改善されたが、依然として原材料の高騰や電気料金の値上げ等の懸念材料が残る。建設業では、引合いが増えつつあるも、慢性的な人材不足は解消されず業績改善の足を引っ張っている。

























小売業では、消費増税後の消費低迷が尾を引き売上、客単価に影響を及ぼしているが、サービス業では若干の業績改善が見られた。

『厳しさは続くが、製造業の売上額の改善に期待』

来期の予測D・I値は、全産業の売上高で▲4.0ポイント(今期▲21.0ポイント→▲25.0ポイント)の悪化、採算で▲5.3ポイント(今期▲26.8ポイント→▲32.1ポイント)の悪化と予想される。

業種別景況指標 (景気の天気図)

〈見通し〉

	H25年	H26年				H27年
	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
製造業						
建設業						
小売業						
サービス業						

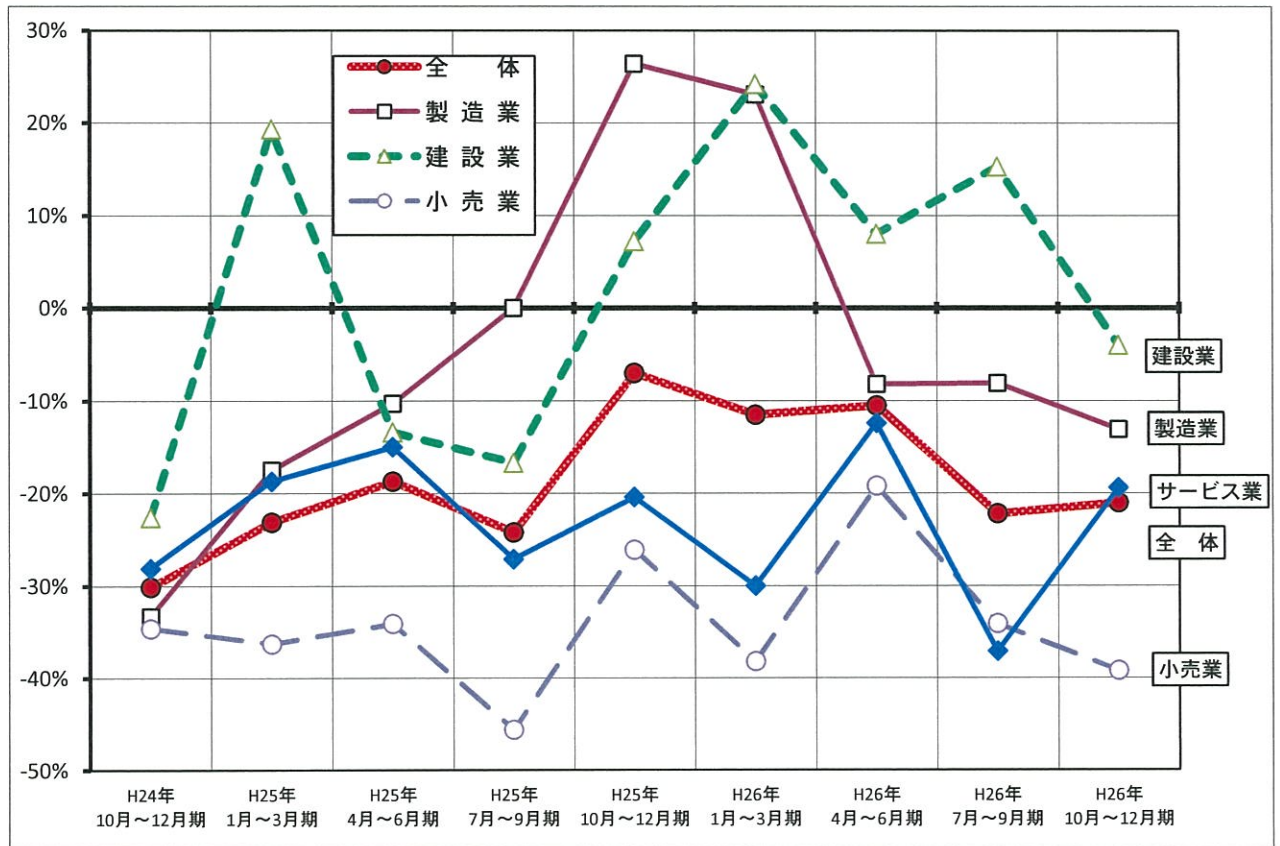
天気図のよみ方

D・I	100.0 ～50.1	50.0 ～25.1	25.0 ～0.1	0.0 ～▲25.0	▲25.1 ～▲50.0	▲50.1 ～▲100.0
指標						
内容	特に好転	好転	やや好転	やや悪化	悪化	特に悪化

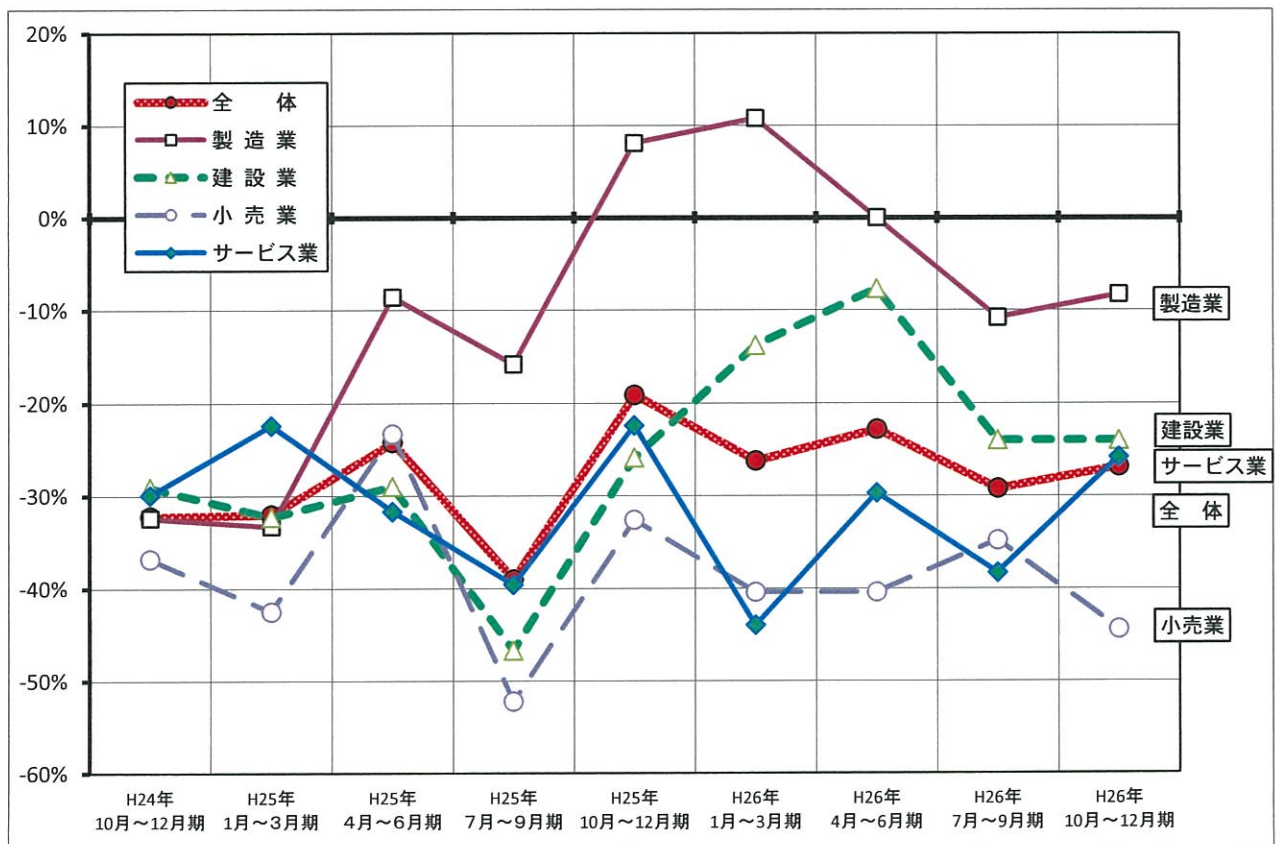
2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

《売上高と採算の推移》

(1) 売上高 D・I (景気動向指数) の推移 —前年同期比—



(2) 採算 D・I (景気動向指数) の推移 —前年同期比—



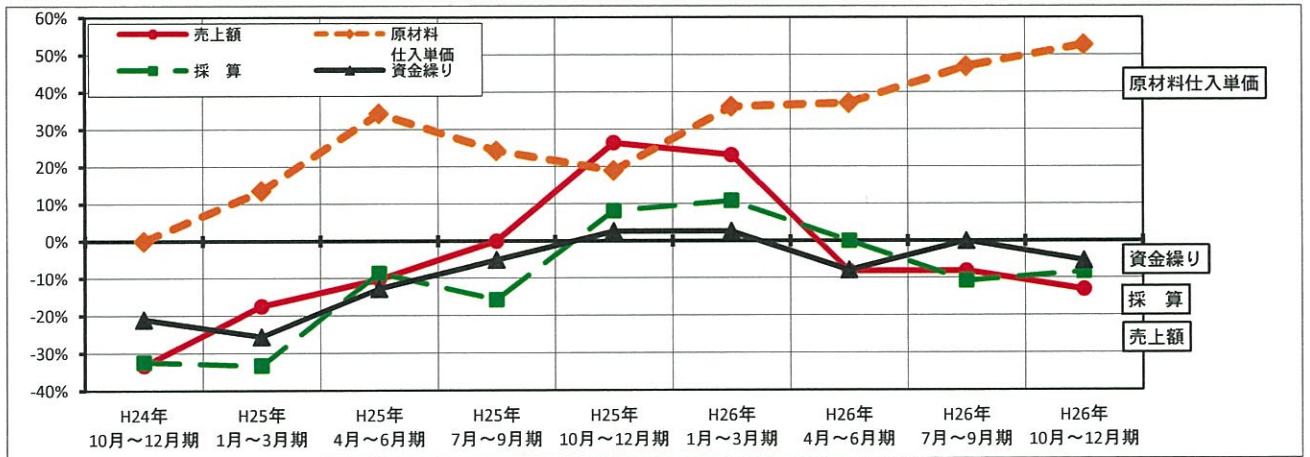
3. 各業種の景況

(1) 製造業

D・I値は、前年同期比で売上額は、▲5.0ポイントの悪化、採算は2.5ポイントと改善した。金属加工業では、独自の技術力や小ロット多品種生産に対応した引合いが増え、売上につながるケースも見られた。飲食料品製造業では、原料価格の高騰による採算悪化が指摘された。

① 製造業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

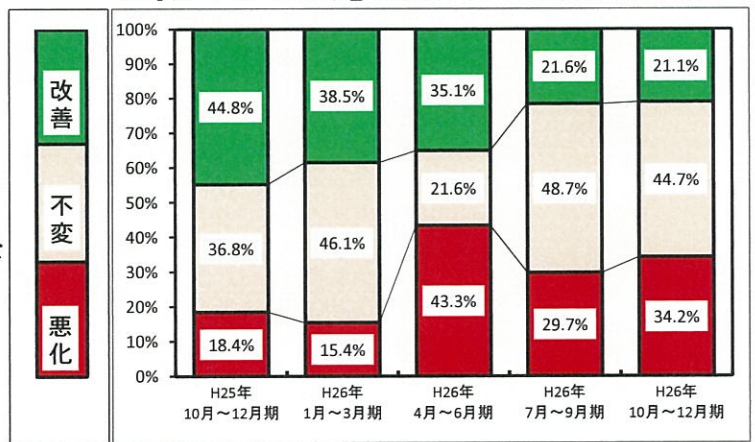
製造業	H25年	H26年					(予測) H27年
	10月～12月期	1月～3月	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	
売上額	26.4%	23.1%	▲8.2%	▲8.1%	▲13.1%	2.6%	
原材料仕入単価	18.9%	36.1%	37.1%	46.9%	52.7%	58.3%	
採算	8.1%	10.8%	0.0%	▲10.8%	▲8.3%	▲14.7%	
資金繰り	2.6%	2.6%	▲7.9%	0.0%	▲5.3%	▲5.3%	



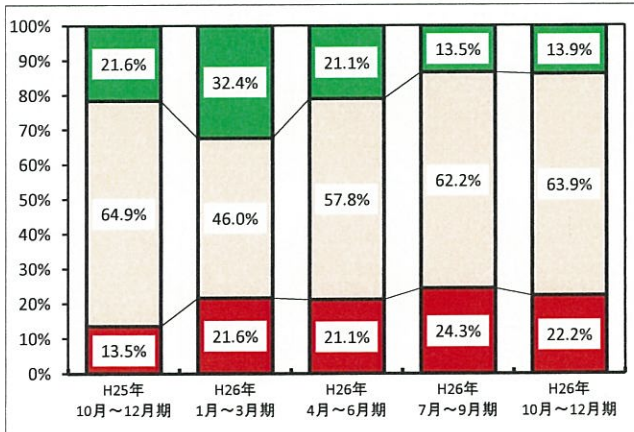
※『売上(加工)額』の状況 前年同期比 (D・I 値)

売上額 …… ▲13.1%
(前年同期比 ▲5.0ポイント悪化)
採算 …… ▲8.3%
(前年同期比 2.5ポイント改善)
資金繰り …… ▲5.3%
(前年同期比 ▲5.3ポイント悪化)

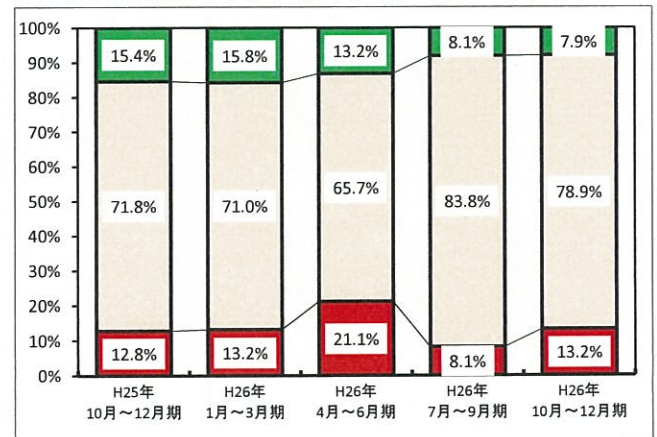
売上額、資金繰り共に、前年度より悪化を指摘する向きが多く、事業者の先行き不透明感からマインドの回復が不十分である事が窺える。



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)

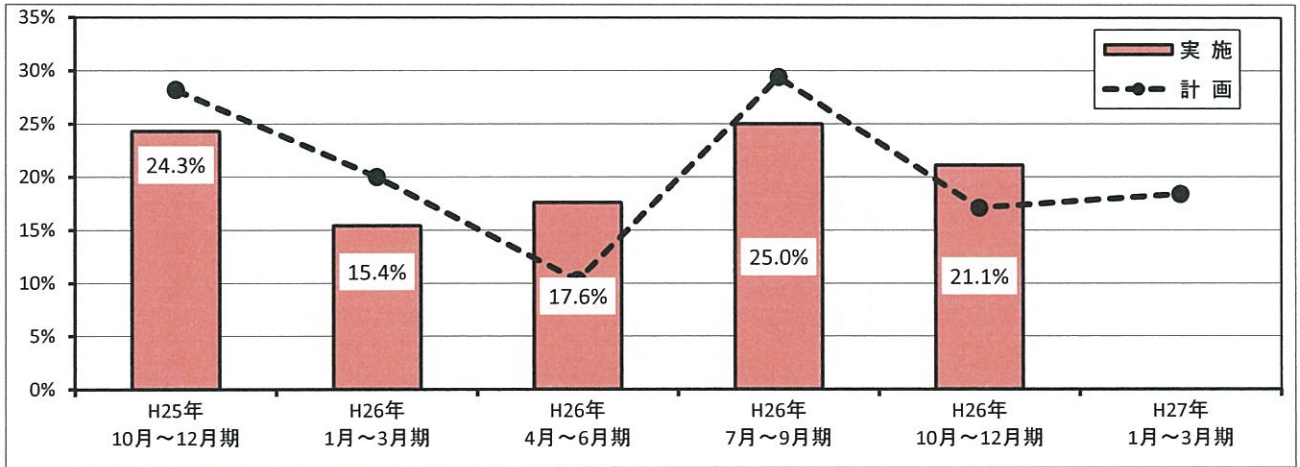


3. 各業種の景況

(1) 製造業

- ② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）
 設備投資の実施状況は生産設備で増加、車両・運搬具で減少し、全体として前期と比較し3.9%減少した。来期の設備投資計画は、生産設備の大幅な増加を見込んでいるものの、設備投資全体としては、18.4%の投資計画にとどまっている。

製造業	H25年	H26年					(計画) H27年
	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	
土地	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
車両・運搬具	22.2%	0.0%	33.3%	11.1%	0.0%	0.0%	
生産設備	44.4%	66.7%	50.0%	55.6%	100.0%	85.7%	
設備投資の実施	24.3%	15.4%	17.6%	25.0%	21.1%	18.4%	

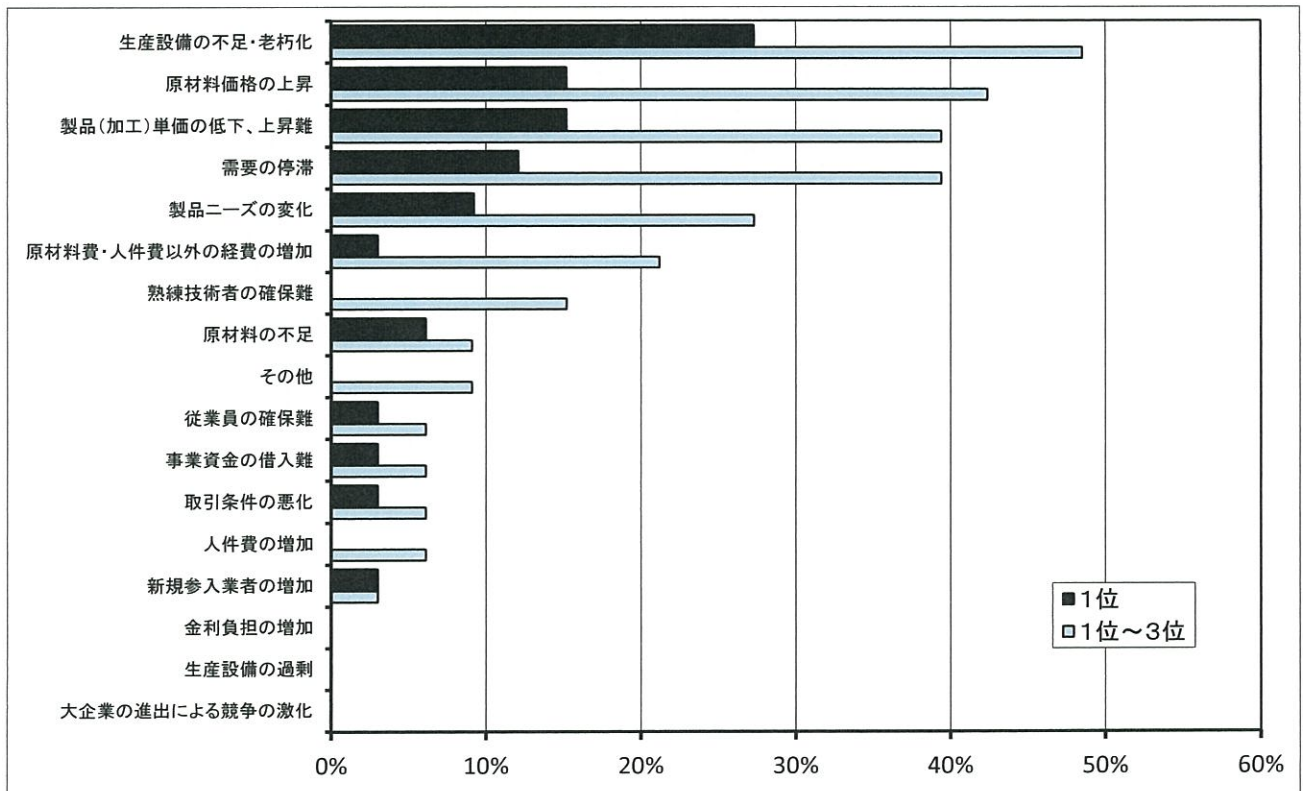


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

- ③ 経営上の問題点

※ グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

前期に引き続き、生産設備の不足、原材料価格の上昇、製品単価の低下が指摘されている。



(注) 問題点の1位に挙げた企業の割合

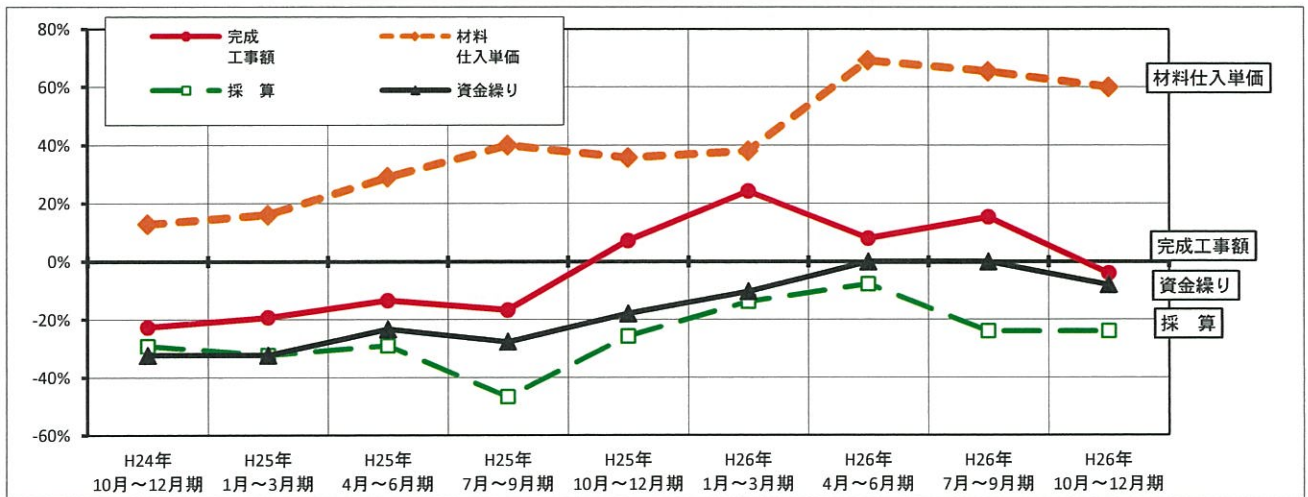
3. 各業種の景況

(2) 建設業

D・I値は、前年同期比で完成工事額は、19.3ポイントの悪化、採算は▲24.0ポイントと変動しなかった。受注の引合いは、回復の兆しがあるものの、円安による資材原料高騰は避けられず、慢性的な人材不足が新規受注の抑制を招き、収益を悪化させている。

① 建設業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

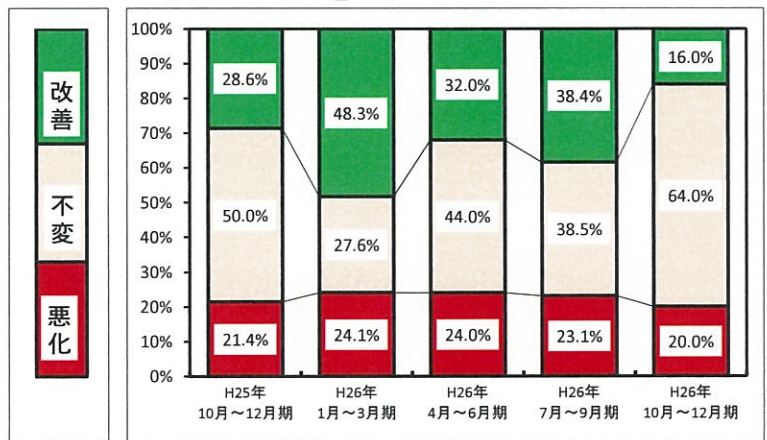
建設業	H25年		H26年				(予測)
	10月～12月	1月～3月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	H27年 1月～3月
完成工事額	7.2%	24.2%	8.0%	15.3%	▲4.0%	▲28.0%	▲28.0%
材料仕入単価	35.7%	38.0%	69.2%	65.4%	60.0%	28.0%	28.0%
採算	▲25.9%	▲13.8%	▲7.7%	▲24.0%	▲24.0%	▲28.0%	▲28.0%
資金繰り	▲17.9%	▲10.3%	0.0%	0.0%	▲8.0%	▲24.0%	▲24.0%



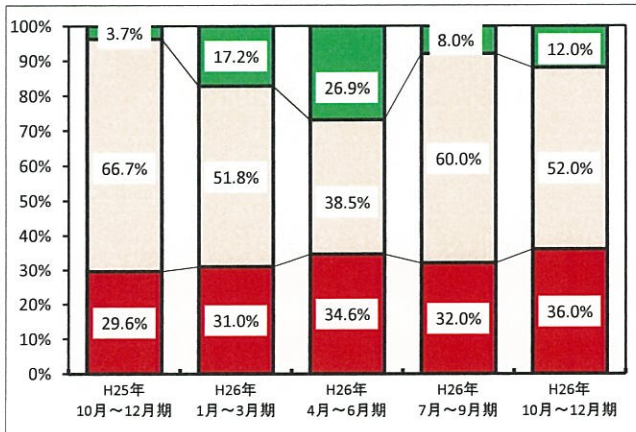
※『完成工事額』の状況 前年同期比 (D・I 値)

完成工事額…… ▲4.0%
(前年同期比 ▲19.3ポイント悪化)
採算…… ▲24.0%
(前年同期比 0.0ポイント不変)
資金繰り…… ▲8.0%
(前年同期比 ▲8.0ポイント悪化)

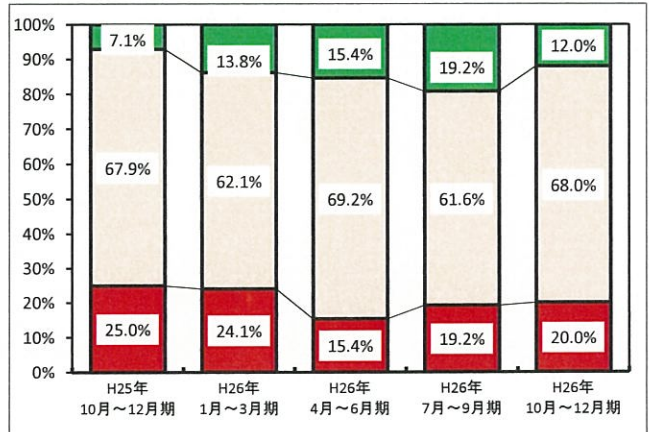
完成工事額、資金繰りでは悪化度合いが減少する傾向にある。
一方、採算が悪化しており、悪化の一因となっている原材料について調達方法を工夫しているケースも見られた。



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)

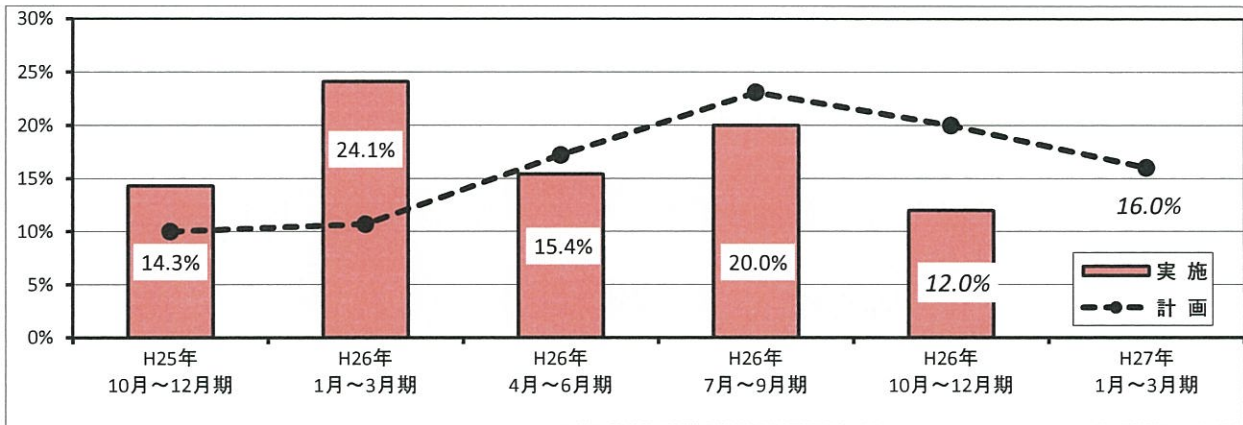


※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）
 設備投資の実施状況は、車両・運搬具は増加し、建設機械は減少、全体として前期と比較し、▲8.0%の減少となった。来期は全体的に控えめな投資計画となっており、全体として16.0%の実施計画となっている。

建設業	H25	H26					(計画)	
	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	H27	1月～3月	
土地	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
車両・運搬具	75.0%	57.1%	0.0%	40.0%	100.0%	50.0%	50.0%	
建設機械	25.0%	14.3%	50.0%	60.0%	33.3%	25.0%	25.0%	
設備投資の実施	14.3%	24.1%	15.4%	20.0%	12.0%	16.0%	16.0%	

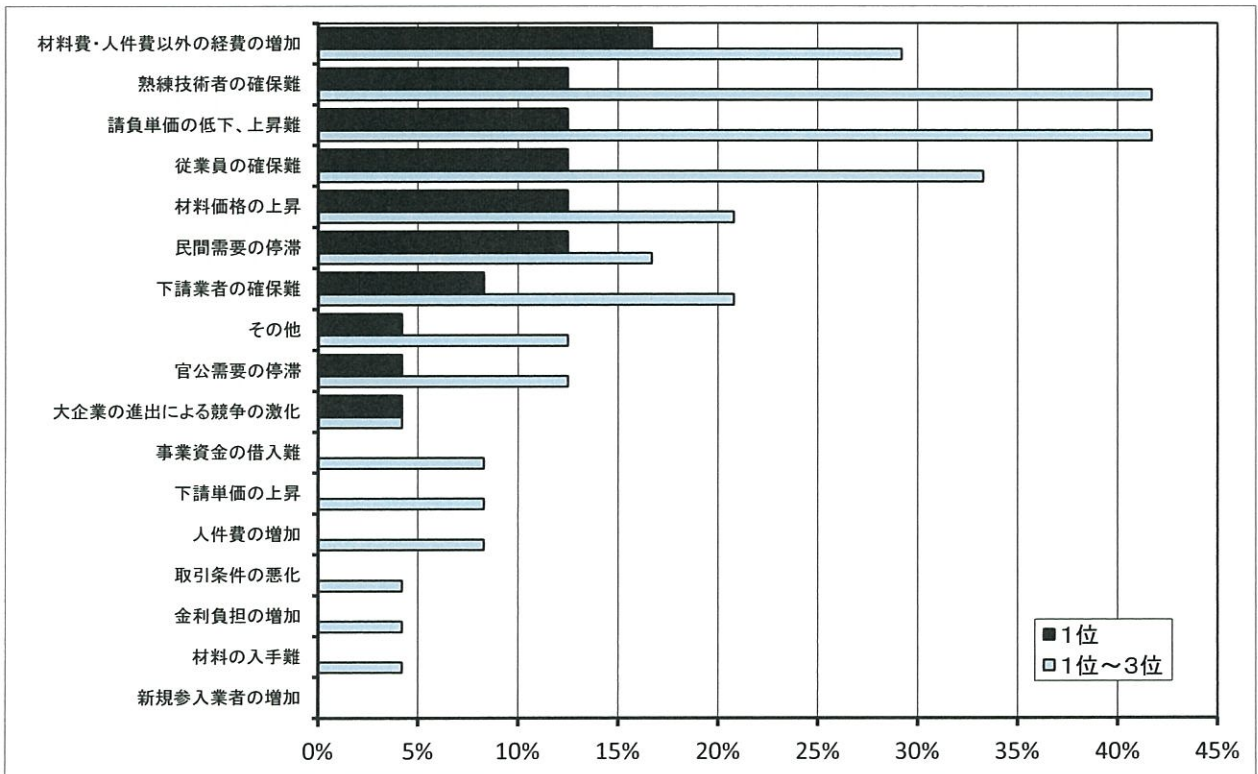


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

今期は、材料費・人件費以外の経費が経営環境を悪化させていると指摘する向きが多く見られた。前期でも指摘された熟練技術者の確保等人材不足が深刻となっており、また資材高騰を請負価格に転嫁できず、引合いが増えている現状を活かしきることができていない状況。



(注) 問題点の1位に挙げた企業の割合

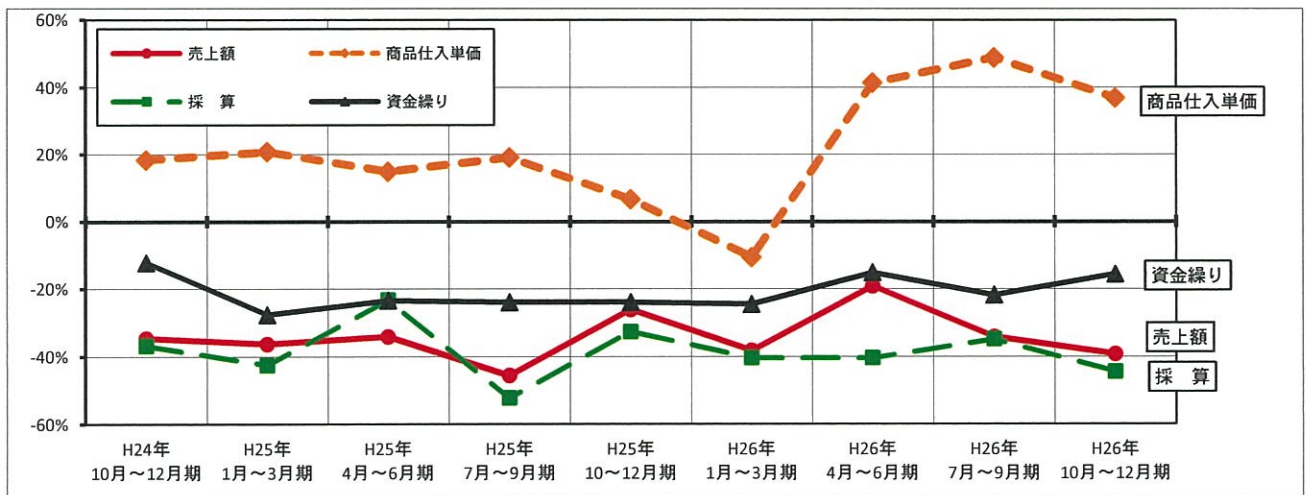
3. 各業種の景況

(3) 小売業

D・I値は、前年同期比で売上額は▲5.1ポイント、採算は▲9.6ポイント悪化した。
 前期に引き続き、消費増税や個人消費の冷え込みにより、地元密着型を主とした事業形態では、経営環境は限界に達し業況が改善されない点が指摘されたが、大手量販店には無い地域性を活かした品揃えやプレミアム商品券、商工会ホームページを利用する等公的支援を利用する動きも見られた。

① 小売業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 ー前年同期比ー

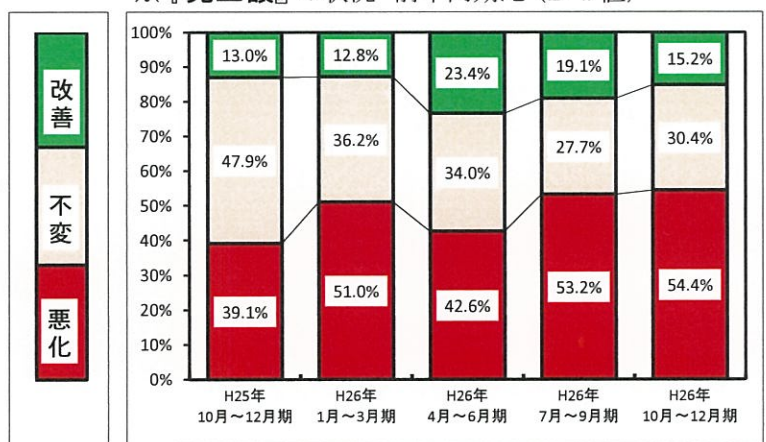
小売業	H25年					H26年					(予測)
	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	H27年 1月～3月
売上額	▲26.1%	▲38.2%	▲19.2%	▲34.1%	▲39.2%	▲39.2%	▲57.8%				▲57.8%
商品仕入単価	6.7%	▲10.6%	41.4%	48.9%	37.0%	37.0%	30.5%				30.5%
採算	▲32.6%	▲40.4%	▲40.4%	▲34.8%	▲44.4%	▲44.4%	▲54.7%				▲54.7%
資金繰り	▲23.9%	▲24.5%	▲15.2%	▲21.8%	▲15.6%	▲15.6%	▲29.6%				▲29.6%



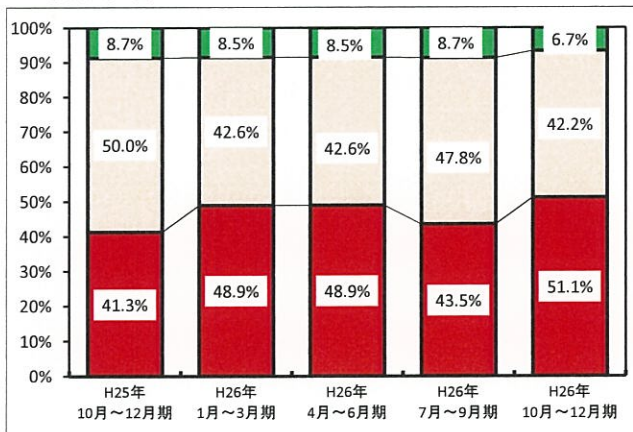
※『売上額』の状況 前年同期比 (D・I 値)

売上額 …… ▲39.2%
 (前年同期比▲5.1ポイント悪化)
 採算 …… ▲44.4%
 (前年同期比▲9.6ポイント悪化)
 資金繰り …… ▲15.6%
 (前年同期比6.2ポイント改善)

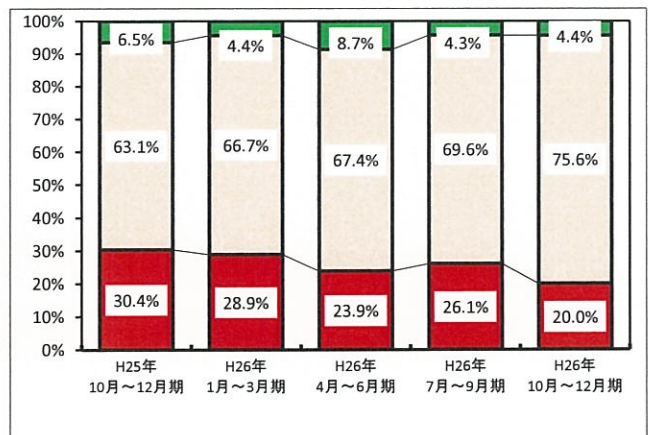
資金繰りでは、若干改善傾向にあるが、売上、採算では、消費増税による個人消費の低迷、商品仕入価格の高騰などマイナス要因により、状況が改善されない。



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



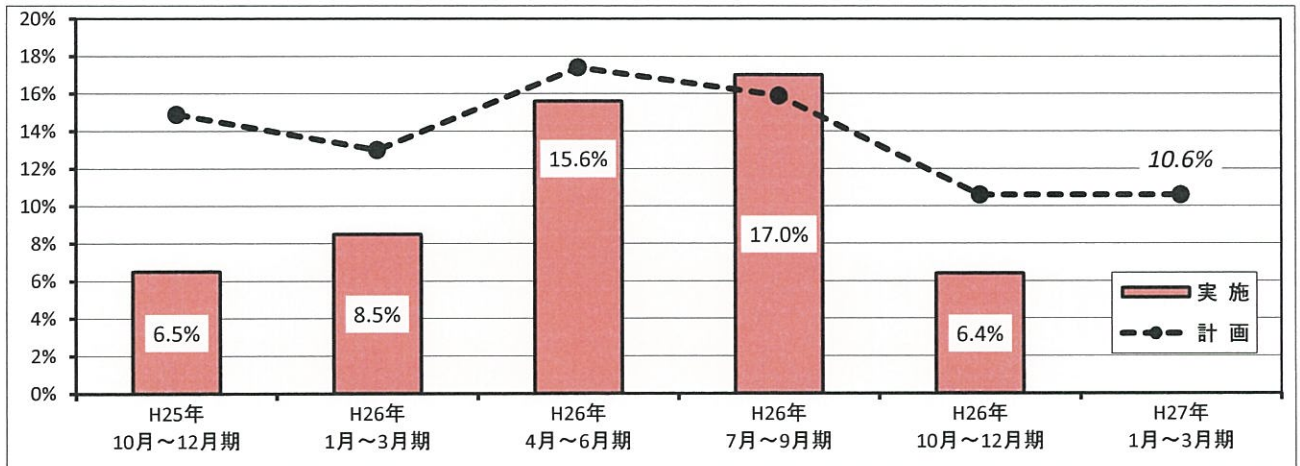
3. 各業種の景況

(3) 小売業

② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）

設備投資の実施状況は、車両・運搬具、販売設備で大きく減少した。全体として前期と比較し▲10.6%と減少した。来期の設備投資計画は、車両・運搬具、販売設備での増加が見込まれ、全体として10.6%の増加計画となっている。

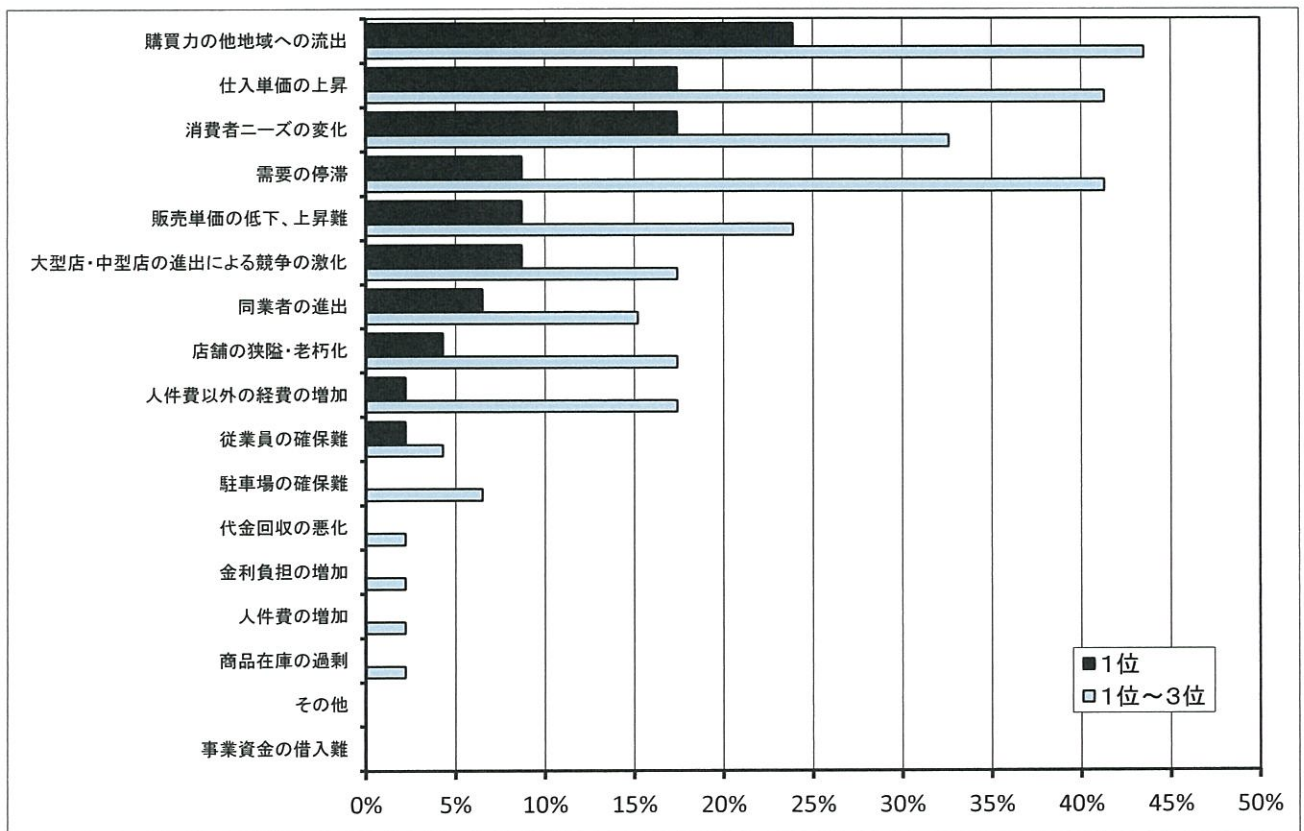
小売業	H25年	H26年				(計画) H27年
	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
土地	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
車両・運搬具	33.3%	25.0%	42.9%	50.0%	0.0%	60.0%
販売設備	33.3%	50.0%	42.9%	62.5%	0.0%	20.0%
設備投資の実施	6.5%	8.5%	15.6%	17.0%	6.4%	10.6%



※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。大型小売店舗の進出等による他地域への流出や、食料品小売業での原材料高騰による仕入単価の上昇や消費者ニーズの変化による売上減少や採算悪化が指摘される。



(注) 問題点の1位に挙げた企業の割合

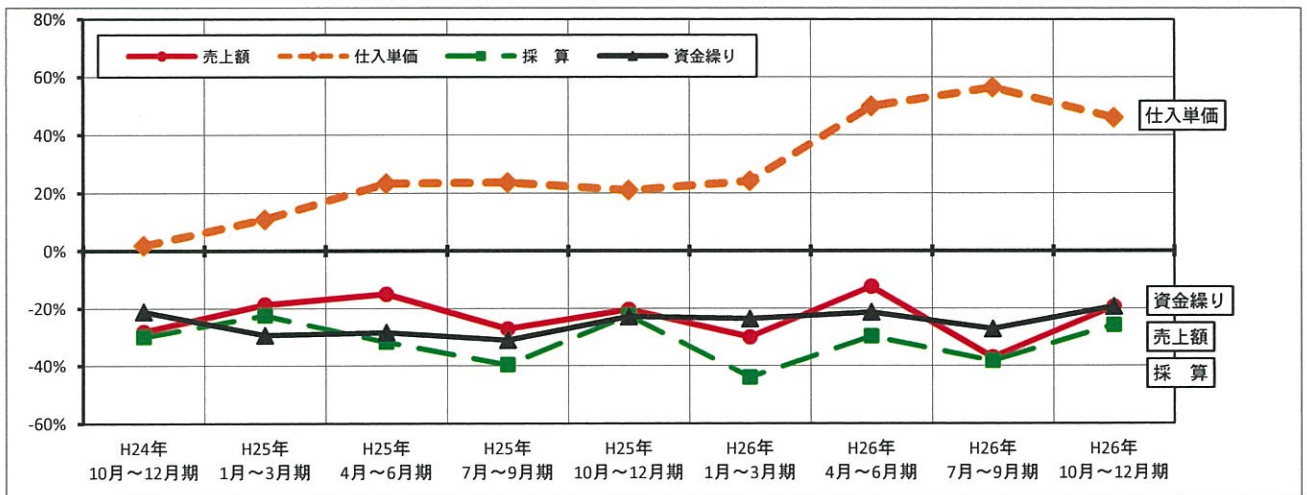
3. 各業種の景況

(4) サービス業

D・I値は前年同期比で売上額は17.7ポイント、採算は12.5ポイント改善した。
 飲食業では、天候不順による客足が伸びず、理容業では、消費者の低価格指向や節約志向が作用し、売上に大きく影響を及ぼした。また、採算面でも全般的に仕入れ価格の上昇を指摘する向きが多く、深刻な状況は変わらない。

① サービス業 D・I 値 (景気動向指数) の推移 ー前年同期比ー

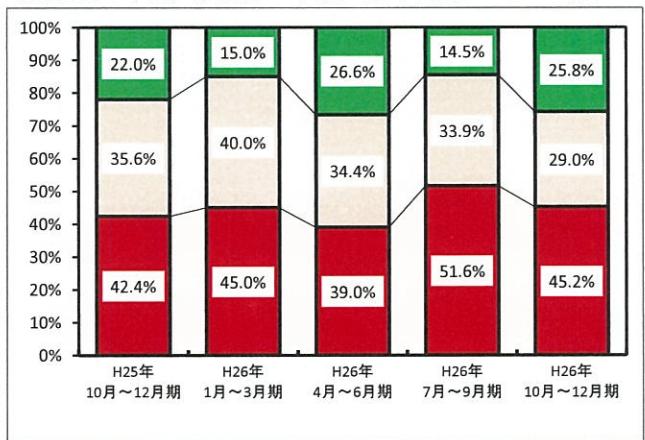
サービス業	H25年					H26年					(予測)
	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	H27年 1月～3月
売上額	▲20.4%	▲30.0%	▲12.4%	▲37.1%	▲19.4%	▲17.1%					▲17.1%
仕入単価	21.0%	24.2%	50.0%	56.5%	46.1%	36.1%					36.1%
採算	▲22.4%	▲44.0%	▲29.7%	▲38.3%	▲25.8%	▲27.9%					▲27.9%
資金繰り	▲22.8%	▲23.6%	▲21.3%	▲27.1%	▲19.3%	▲22.9%					▲22.9%



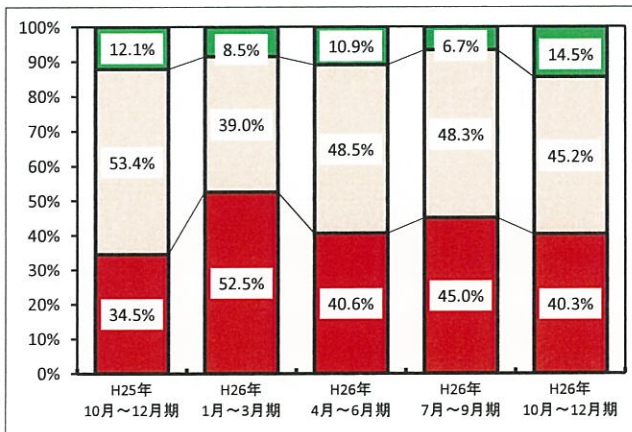
※『売上(収入)額』の状況 前年同期比 (D・I 値)

売上額 …… ▲19.4%
 (前年同期比17.7ポイント改善)
 採算 …… ▲25.8%
 (前年同期比12.5ポイント改善)
 資金繰り …… ▲19.3%
 (前年同期比7.8ポイント改善)

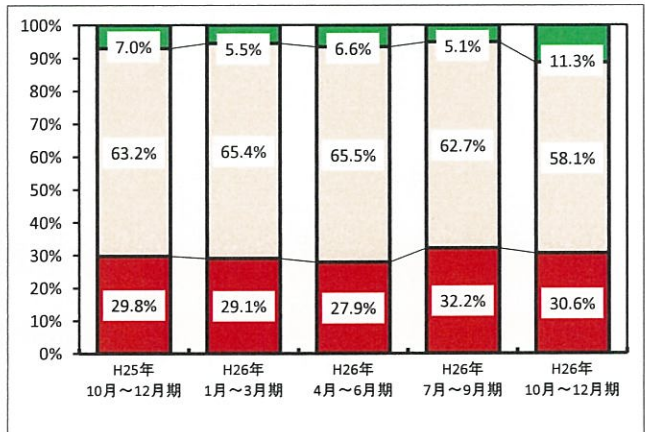
売上額、採算、資金繰りとも一年を通じ、多少の変動があるものの、低迷しており、足踏み状態が続いている。



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



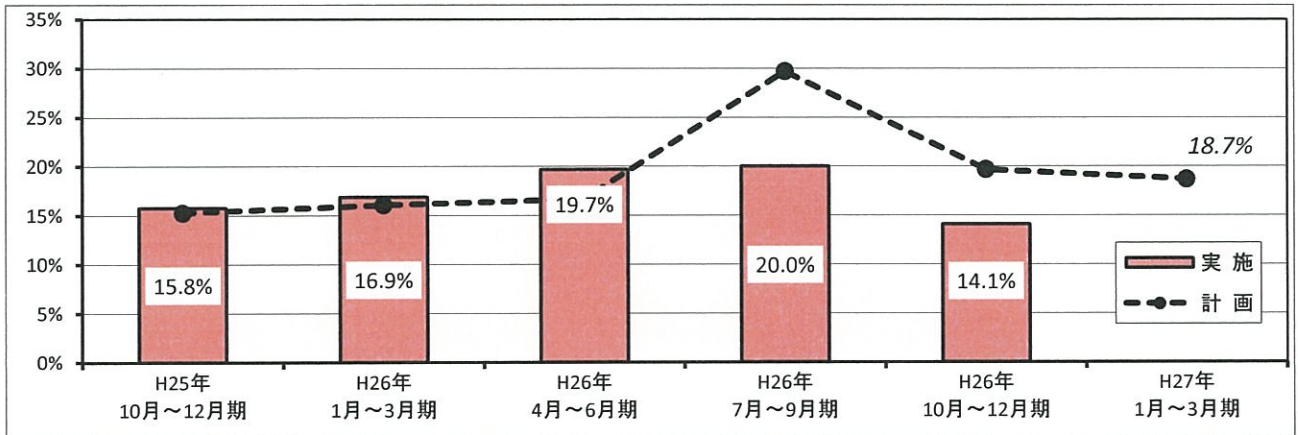
3. 各業種の景況

(4) サービス業

② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）

設備投資の実施状況は、車両・運搬具で増加、サービス設備で減少、全体として前期と比較し▲5.9%減少した。来期の設備投資計画は、サービス設備で若干の増加が見込まれるが、全体として18.7%の計画にとどまっている。

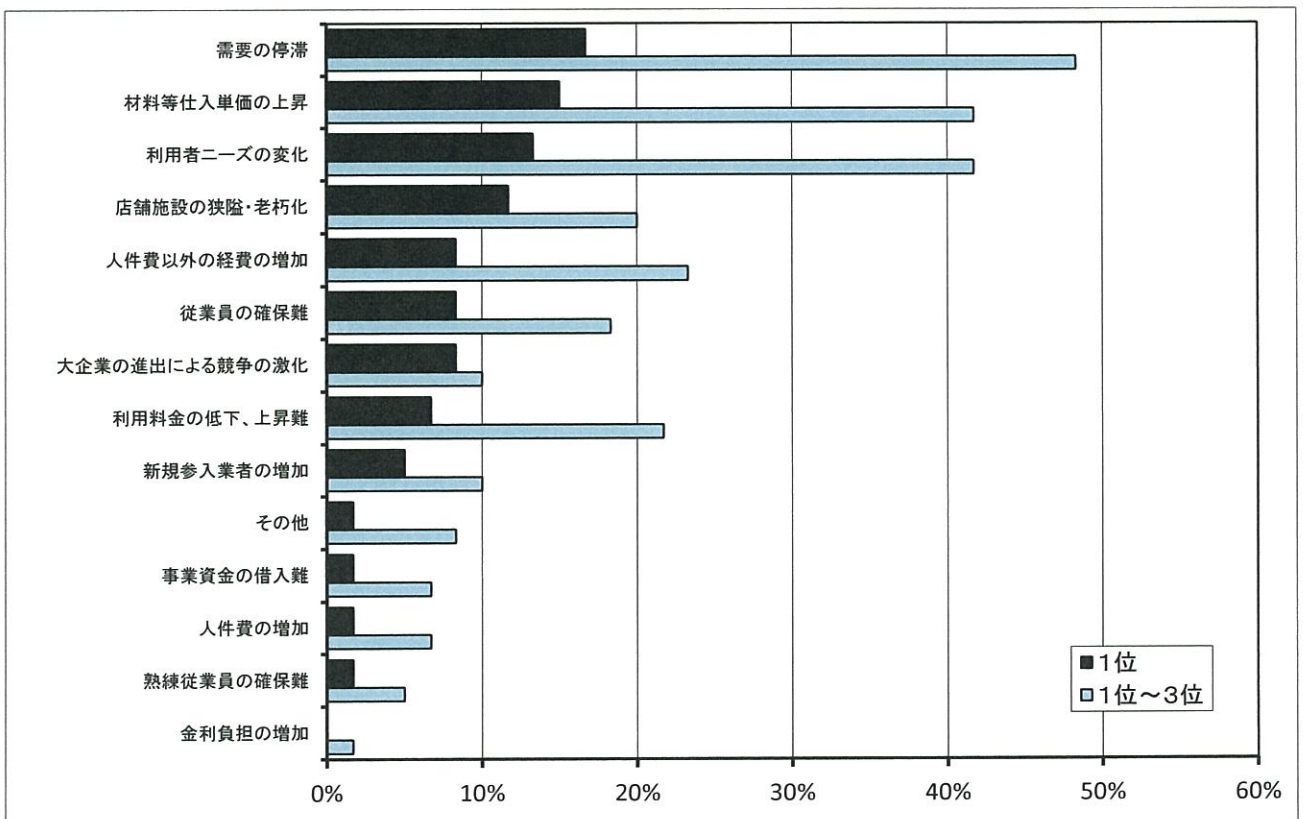
サービス業	H25年	H26年				(計画) H27年
	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
土地	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%
車両・運搬具	0.0%	0.0%	25.0%	8.3%	22.2%	8.3%
サービス設備	11.1%	40.0%	33.3%	50.0%	33.3%	41.7%
設備投資の実施	15.8%	16.9%	19.7%	20.0%	14.1%	18.7%



※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。個人所得の伸びが鈍化しており、個人消費の冷え込みから需要が停滞し、仕入れ価格の上昇から採算の悪化を指摘する向きが見られた。また、多様化する顧客のニーズの対応に苦慮する姿が見られた



(注) 問題点の1位に挙げた企業の割合

